

日本気象学会 教育と普及委員会 主催

## 公開気象講演会2021

事前申込



参加無料

# 命を守る 身近な気象情報

日本気象学会2021年度秋季大会の開催期間に先立ち、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。

今回のテーマは「命を守る身近な気象情報」です。どなたでもご参加いただけますので、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

- 日時：2021年11月28日（日） 14:00～17:00
- 会場：オンライン開催（Zoomウェビナーを使用）
- 主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
- 後援：一般社団法人日本気象予報士会
- 参加費：無料
- 参加登録：以下のWEBページから事前登録をお願い致します  
URL: <https://forms.gle/SzyPLXo7ph97Mcrz5>
- 問い合わせ先：渡来 靖（教育と普及委員会）  
Email: [msj-ed\\_2021@metsoc.jp](mailto:msj-ed_2021@metsoc.jp)  
TEL: 048-539-1650

- 講演 1  
「大雨災害から身を守るために  
-キキクルの活用-」  
太田 琢磨（気象庁 大気海洋部気象リスク対策課 水害対策気象官）
- 講演 2  
「ビッグデータから紐解く  
気象病とリスク管理」  
小越 久美  
（一般財団法人日本気象協会 社会・防災事業部 気象デジタルサービス課）
- 講演 3  
「市民への情報伝達をベースにした  
降雨探知と予測手法」  
大石 哲（神戸大学 都市安全研究センター）
- 講演 4  
「新たな避難情報について」  
岩井 真央  
（内閣府 政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)付 風水害対策調整官）
- 講演 5  
「防災気象情報の伝え方」  
南 利幸（南気象予報士事務所／気象キャスター）

# 公開気象講演会2021 概要・講演要旨

## ▶ 講演会概要

日本気象学会2021年度秋季大会の開催期間に先立ち、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。

今回のテーマは「命を守る身近な気象情報」です。2019年は令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風と相次いで台風が上陸し、また、2020年は令和2年7月豪雨により、記録的な大雨による河川の氾濫や暴風等による甚大な被害をもたらしました。また、近年では、夏季に熱中症が発生しやすい気象状況になる事が多くなっています。

今回の講演会では、このような様々な気象災害から命を守るために、身近な気象情報を有効活用する目的から、各分野の専門家からお話しいただくことにしました。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

## ▶ 講演1：「大雨災害から身を守るために-キキクルの活用-」 太田 琢磨（気象庁 大気海洋部気象リスク対策課 水害対策気象官）

最近、ニュースや気象情報などで「キキクル」という情報を目にしたことはありませんか。キキクルとは、土砂災害や浸水害、洪水の危険度の高まりを地図上に色分けして表示した防災気象情報のことです。気象庁ホームページで1km四方の細かさで10分ごとにリアルタイムで更新され、大雨や台風のと看、身にせまる災害を一目で確認することができます。

講演では、近年の大雨災害を取り上げ、キキクルの特徴やその活用方法を紹介します。

## ▶ 講演2：「ビッグデータから紐解く気象病とリスク管理」 小越 久美（一般財団法人日本気象協会 社会・防災事業部 気象デジタルサービス課）

気象病とは、天気や気温の変化が原因で悪化する病気の総称です。近年、ビッグデータの活用が進むことで気象との関係が明瞭となり、予測が可能となりつつあります。本講演の前半では、気象病の具体事例について、医療統計データを用いた気象病予測の日本気象協会の取り組みを交え紹介します。後半では、夏の高温化で深刻化する熱中症について取り上げ、より中長期のリスク管理が求められる教育現場や企業に向けて、その予測可能性について解説します。

## ▶ 講演3：「市民への情報伝達をベースにした降雨探知と予測手法」 大石 哲（神戸大学 都市安全研究センター）

近年は豪雨災害の頻度が増えています。一方で気象レーダーを用いた降雨情報の探知では、精度や時空間解像度が向上してきています。それにと看なって予測精度が向上し、予測時間も長くなってきています。本講演では、市民への情報伝達をベースにして考えられた短時間で情報収集可能なレーダーの開発や、降雨情報を加工することで住民の避難行動に促すことができる降雨予測の研究を紹介します。また、実務への応用事例も提示して、水災害を意識した社会について議論します。

## ▶ 講演4：「新たな避難情報について」 岩井 真央（内閣府 政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)付 風水害対策調整官）

避難情報に関しては、今般、警戒レベル4の避難勧告と避難指示を「避難指示」に一本化し、これまでの避難勧告のタイミングで避難指示を発令することとするとともに、警戒レベル5を「緊急安全確保」とし、災害が発生・切迫し指定緊急避難場所等への立退き避難がかえって危険であると考えられる場合に直ちに安全確保を促すことができることとするなど、改善がなされたところです。本講演においては、こうした避難情報に関する昨今の状況について解説させていただきます。

## ▶ 講演5：「防災気象情報の伝え方」 南 利幸（南気象予報士事務所/気象キャスター）

毎年1回か2回は大雨特別警報が発令された場面で気象情報を伝えることがあります。放送直前まで現在の状況や今後の見通しを、どのような画面を使いながら、いかに分かりやすく伝えるかを考えています。アメダス降水量、土砂災害や洪水害の危険度分布、気象レーダーによる雨雲の動きや降水短時間予報による今後の雨の降り方などその場面に応じた画面を選択し、切迫した状況が伝わる言葉も選択しながら情報を伝えています。